

3 級 学科試験問題

1. 試験時間 60 分

2. 問題数 25 題 A 群 (真偽法 25 題)

3. 注意事項

- (1) 携帯電話、腕時計型端末の使用は禁止します。(電源は予め切り、バック等にしまって下さい)。
- (2) 机上に受検票及び筆記用具以外のものを置いてはいけません。
- (3) 電子式卓上計算機、その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (4) 試験官の指示があるまで、この表紙を開けてはいけません。
- (5) 試験官の指示に従って、試験問題のページ数を確認してください。もし、異常があった場合には、黙って手を挙げて下さい。
- (6) 解答用紙はマークシートです。必ず鉛筆又はシャープペンシルを使用して下さい。
- (7) 解答用紙には、等級、受検番号、氏名を必ず記入し、受検番号の欄は、受検区分と受検番号を必ずマークして下さい。
- (8) 試験官の指示に従って、試験を開始して下さい。
- (9) 問題は、A 群 (真偽法 25 題) の 25 題です。
 - ① 真偽法は、問題の内容が正しいか誤っているかを判断し、解答用紙に正か誤のどちらか一つを記入して下さい。
 - ② 解答用紙の注意事項を必ず確認し、A 群と B 群の解答欄を間違わないように記入して下さい。
- (10) 試験中、質問があるときは、黙って手を挙げて下さい。ただし、漢字の読み方を含めて、試験問題の内容についてはお答えできません。また、退室後は試験が終了するまで再入室ができません。
- (11) 試験終了時刻前に解答ができあがった場合は、黙って手を挙げて試験官の指示に従って下さい。試験開始後 30 分間は退出できません。
- (12) 試験中にトイレに行きたい場合は、黙って手を挙げて試験官の指示に従って下さい。
- (13) 試験終了の合図があったら、筆記用具を置き、試験官の指示に従って下さい。
- (14) 試験終了後、解答用紙は提出して下さい。問題用紙は持ち帰って下さい。

■ A群（真偽法）

1. エレベータのスイッチ回りボタンは、どんな汚れでも水拭きで汚れが除去できる。
2. 建築物清掃業登録基準では、作業従事者は全員、定期的に研修を受けなくてはならない。
3. 防災設備は、建築設備ではない。
4. ビル内で発生する廃棄物の多くは、紙くず、雑芥(ざっかい)・ちゅう芥類である。
5. かさ高固着物の汚れの一つに、キャラメルの固着化した汚れが含まれる。
6. 廃棄物の中間処理には、分別作業は含まれない。
7. 一定の規模以上の事業所では労働安全衛生法に基づいて衛生管理者を選任しなければならない。
8. 床みがき機は、フローアポリッシャー、フローマシン又は、フロースクラバーとも言う。
9. 建築物の美しさを保つために清掃作業を行う。
10. 建築物所有者は、特定建築物を環境衛生の点から適正に維持管理するために、建築物環境衛生管理技術者を選任しなければならない。
11. バーナー仕上げの花崗岩は表面が平滑になっている。
12. 汚れの除去は、物理的な力と化学的な力を効果的に活用する必要がある。
13. 塩化ビニル系の床材に適した水性フローポリッシュポリマータイプの床維持剤は、一般的に半樹脂ワックスとも言う。
14. 建築物を清潔で衛生的に保つために、技能の向上に努めなければならない。
15. 合成洗剤は化学的に合成した界面活性剤を主剤とし、助剤として各種薬剤を加える。
16. 搬送設備には、避難用はしご・救助袋・避難ロープなどがある。
17. 労働災害には、人身の障害を伴わないものも含まれる。
18. 玄関ホールは、建築物の顔といわれる重要な場所である。
19. 廃棄物処理法（略称）では、産業廃棄物は生活系廃棄物に分類されている。

20. 洗浄で汚れがひどく除去できないときは、建材を傷めてもやむをえない。
21. 延べ床面積が 3,000 m²以上の病院の建築物は、「特定建築物」である。
22. 清掃は、すべての面で統一的・計画的・効率的に行う必要はない。
23. カーペット用低発泡洗剤は、シャンプークリーニングに使用する。
24. リノリウム系床材は、多孔質でアルカリ性の洗剤や溶剤に弱い。
25. ビルから排出される廃棄物については、建築物衛生法（略称）に定められている。

3級 学科試験問題

< 正 解 >

A群 真偽法	
設問	解答
1	誤
2	正
3	誤
4	正
5	正
6	誤
7	正
8	正
9	正
10	正
11	誤
12	正
13	誤
14	正
15	正
16	誤
17	誤
18	正
19	誤
20	誤
21	誤
22	誤
23	誤
24	正
25	誤